

が用いられている。

収れん作用とは皮膚に塗った時に、その皮膚組織をひきしめる作用で、その薬物が蛋白質と不溶性化合物を作ることに基いている。収れん作用は粘膜や皮膚のただれた部分、創傷の部分などに対してはよく発揮されるが、健全な皮膚に対してはその作用は殆ど行われぬものである。ただ汗孔、毛穴から少し侵入して、それらの細胞に対して、多少の作用を及ぼすことが考えられる。従ってこれらの分泌を抑える様に働くので、収れん作用をもつものが、脂性の皮膚に適当とされ、更に強い収れん剤は制汗薬として用いられるのである。また緩和な収れん剤は消炎的にも働くので、太陽の紫外線にあって日焼けした皮膚に対しても、都合のよい作用を現わす。

これらに用いられる酸としてはホウ酸、酢酸、乳酸、クエン酸、タンニン酸などで、亜鉛塩としては硫酸亜鉛、フェノールスルホン酸亜鉛など、アルミニウム塩では明礬が用いられる。この中フェノールスルホン酸亜鉛が作用も緩和であるので賞用せられる。米国で賞用されるウィッチ・ヘーゼル Witch Hazel は、そのエキスはタンニン酸を含んでいるが、実際によく用いられているのはその蒸留液であるので、これはタンニン酸を含んでいない。

スキンフレッシュナー（スキンフッド）とアストリンゼントとは、本質的には区別が無いが、前者はその作用が一層緩和なものといふことができる。

1. スキンフレッシュナー Skin Freshner

嘗てスキントニックと呼ばれていた化粧水である。これはアストリンゼントより作用が緩やかであり、一般の洗面後の皮膚の手当、化粧下などに適する。アルコールは 15% 以下、酸性で、芳香性の化粧水である。亜鉛やアルミニウム塩系統の収れん剤は含んでいない方が望ましく、含んでも極く低濃度にすべきである。

(1) ホウ酸	0.8%	橙花水	87.05%
安息香酸	0.15 "	色素	適宜
アルコール	12 "		

(2) 1. ホウ酸	1%	4. アルコール	10%
2. クエン酸	0.5 "	5. 水	83 "
3. グリセリン	5 "	6. 香料	0.5 "

1, 2 を 5 の一部に溶かしてこれに 3 を加え、6 を 4 に溶かしたものを加えてよく振りまぜ、更にタルクを加えて振りまぜて、濾過して澄明にする。色素を加えて着色することが多い。

2. ウィッチ・ヘーゼル Witch Hazel

これは米国で賞用され、化粧水の外、クリームその他の化粧品によく配合せられている。

これはハマメリス *Hamamelis virginiana* と呼ぶ灌木で、葉はハマメリン(7%)、タンニン(8%)、粘液質などを含み、皮はタンニン、没食子酸、粘液質などを含んでおり、両者とも化粧品原料に用いられる。このエキスとチンキは強い収れん作用をもっているが、化粧水によく配合されるものは蒸留液でその作用はきわめて緩和である。

国産のマンサクは同属の植物であり、類似の成分を含んでいるので、同じ目的に使用することができる。

ウィッチ・ヘーゼル・エキス： ハマメリス葉(皮) 1,000 g を水 2 l, アルコール 150 cc の混液に、よくかきまぜながら 2 時間浸漬し、圧漉し、濃縮してエキスとする。

ウィッチ・ヘーゼル・チンキ： ハマメリス葉 100 部を約 70% アルコール 500 部に 10 時間浸漬して圧漉する。

ウィッチ・ヘーゼル水： ハマメリス葉 1,000 g を水 2 l, アルコール 180 cc に浸漬すること 24 時間、次いで圧漉し、これを蒸留して留液 1,000 cc を採る。無色澄明の液で、特有の香気をもち、緩やかな収れん作用と弱い防腐作用をもっている。葉は若葉を用いると良品が得られる。

(1) ホウ酸	1%	アルコール	10%
ウィッチ・ヘーゼル水	15 "	橙花水	59 "
ローズ水	15 "		